



# 連結業績の概要 2018年度第1四半期



2018年7月31日

武田薬品工業株式会社

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー

Better Health, Brighter Future

# 重要な注意事項

## 留意事項

本通知において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「武田薬品」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。いかなる株式も本プレゼンテーションによって公開されておりません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明（シナジーの予測の声明を含みます。）も、いかなる期間における業績予測又その見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における武田薬品の収益又は1株あたりの収益が過去に公表された武田薬品の1株あたりの収益と必ずしも合致し、又はそれを超えることを意味すると解釈されてはなりません。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

## 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、2018年事業年度における売上収益、中核利益、営業利益、税引前純利益、親会社の所有者に帰属する純利益、基本的1株当たり利益、研究開発費、無形資産償却費及び減損、並びに収益/費用に関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表すものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいということは何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

## 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

## 2018年度の武田薬品の業績予想について

武田薬品は現在、Shire plcに関するオファー期間（英国のCity Code on Takeovers and Mergers（以下、「コード」）において定義される期間をいいます。）にあります。コード第28条に基づき、武田薬品による2018年度のガイダンスに関する見解（2018年度における売上収益、Core Earnings、営業利益、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、EPS、研究開発費、無形資産償却費及び減損損失、収益/費用、並びに実質的な売上収益、実質的なCore Earnings及び実質的なCore EPSに関する予想情報を含みます。）は、2018年度における業績予想（以下「武田薬品業績予想」）を構成します。

武田薬品業績予想に関する追加情報及び取締役による当該業績予想が有効なものであり、上掲の前提及び当社の会計方針に基づき適切に作成されている旨の確認につきましては、2018年5月14日付けの武田薬品2018年3月期決算短信をご参照ください。

Core Earnings及びCore EPSの定義並びに武田薬品が実質的な成長を算出した方法についての説明は、第21頁を参照ください。

# 2018年度も力強いビジネス・モメンタムが持続

- 優先事項であるGrow Portfolio（事業ポートフォリオの成長）、Strengthen Pipeline（研究開発パイプラインの強化）およびBoost Profitability（利益率の向上）の着実な進捗
- 実質的な売上収益と利益率の力強いスタート、タケダの成長ドライバーと規律ある営業経費管理が牽引
- 財務ベースの営業利益とEPSは2017年度第1四半期の二つの大きな取引の影響を受ける、これらの影響を除くと営業利益は37.5%増益
  - 和光純薬の株式売却益 1,063億円
  - テバ社との合併会社に売却した第2陣の製品にかかる収益 168億円

2018年度第1四半期 対前年同期

財務ベース		和光純薬の株式売却益 影響除き	和光純薬の株式売却益と テバ合併会社への 第2陣製品売却影響除き	実質ベース	
売上収益	+0.4%	+0.4%	+4.3%	売上収益	+6.4%
営業利益	△49.3%	+11.5%	+37.5%	Core Earnings	+40.3%
EPS	△46.1%	+10.7%	+32.6%	Core EPS	+51.1%

# 優先事項の着実な進捗

## Grow Portfolio

- 実質的な売上収益は+6.4%、すべての地域で増収
- 成長ドライバーは+11.8%、エンティビオ+34.1%、ニンラー口 +43.3%
- タイジェニクス社を6月に買収、欧州でALOFISELによる最初の患者さんを治療
- ブラジルのマルチラブ社と中国のテックプール社を売却（第2四半期に完了）

## Strengthen Pipeline

- エンティビオの潰瘍性大腸炎の日本承認、ベドリズマブ皮下投与製剤による潰瘍性大腸炎の維持療法の試験において主要評価項目を達成
- ALUNBRIGの非小細胞肺がんのフロントライン治療 (ALTA-1L) とニンラー口の多発性骨髄腫に対する自家造血幹細胞移植後の維持療法 (TOURMALINE-MM3) の試験において主要評価項目を達成
- 2018年4月以降、2つの新規候補物質がステージアップ

## Boost Profitability

- グローバル経費削減イニシアチブの業務への完全な組み入れ（KPI、目標、予算、システム）
- 実質的なCEは+40.3%、対売上収益比率は+640bps
- 実質的なCore EPSは+51.1%

成長ドライバー：消化器系疾患領域、オンコロジー（がん）領域、ニューロサイエンス（神経精神疾患）領域および新興国事業  
CE: Core Earnings

# 力強い実質的な業績、財務ベースのEPSは2017年度の大きな一時的な収益による影響を受ける

- **財務ベースのEPSは2017年度の大きな一時的な収益による影響を受けて△46.1%**
  - 売上収益は+0.4%の増収、成長ドライバーが為替による減収影響△0.5ppと事業等の売却による減収影響△5.6ppを吸収
  - 営業利益は△49.3%の減益、2017年度第1四半期の和光純薬の株式売却益1,063億円とテバ社との合併会社に売却した第2陣の製品にかかる収益168億円の影響を受ける、これらの影響を除くと営業利益は+37.5%の増益
- **実質ベースの業績は成長ドライバーと規律ある営業経費管理により好調**
  - 実質的な売上収益は日本の薬価改定があったものの+6.4%の増収
  - 実質的なCore Earningsは+40.3%の増益、対売上収益比率は640bps向上、いくらかの期ずれの影響あり
  - 実質的なCore EPSは+51.1%の増加
- **営業フリー・キャッシュ・フローはR&Dマイルストンの達成と前年同期のテバJVへの製品売却影響を受けて△90.6%**
  - ノン・コア資産の売却は計画通り、さらに319億円のキャッシュを創出

# 財務ベースのCore Earningsは+9.8%と良好、営業利益とEPSは前年度の和光純薬株式売却の一時的収益の影響を受ける

## 2018年度第1四半期 損益計算書（財務ベース）

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第1四半期	第1四半期		
売上収益	4,482	4,498	+16	+0.4%
Core Earnings	1,063	1,168	+105	+9.8%
営業利益	1,950	989	△961	△49.3%
当期利益	1,448	782	△665	△46.0%
EPS	186円	100円	△86円	△46.1%
円/ドル	111円	108円	△3円	△2.8%
円/ユーロ	121円	130円	+9円	+7.1%

# 規律ある営業経費管理を主因として実質的なCore Earningsの 対売上収益比率が+640bps向上

2018年度第1四半期 損益計算書（実質ベース）

（億円）	<u>2017年度</u> <u>第1四半期</u>	<u>2018年度</u> <u>第1四半期</u>	<u>対前年同期</u>	
売上収益	4,148	4,415	+267	+6.4%
売上総利益	2,970	3,232	+262	+8.8%
対売上収益比率	71.6%	73.2%		+1.6pp
営業経費	△2,139	△2,066	+73	△3.4%
対売上収益比率	△51.6%	△46.8%		+4.8pp
Core Earnings	831	1,167	+335	+40.3%
対売上収益比率	20.0%	26.4%		+6.4pp
Core当期利益	653	987	+334	+51.1%
Core EPS	84円	126円	+43円	+51.1%

# 成長ドライバーは力強い+11.8%の売上成長

## 2018年度第1四半期 実質的な売上収益の成長

### 成長ドライバー








消化器系疾患	+19.3%
オンコロジー	+6.7%
ニューロサイエンス	+23.5%
新興国事業	+6.2%
<b>合計</b>	<b>+11.8%</b>

タケダ連結売上に占める成長ドライバーの比率：62%



# 主力製品の力強い売上実績

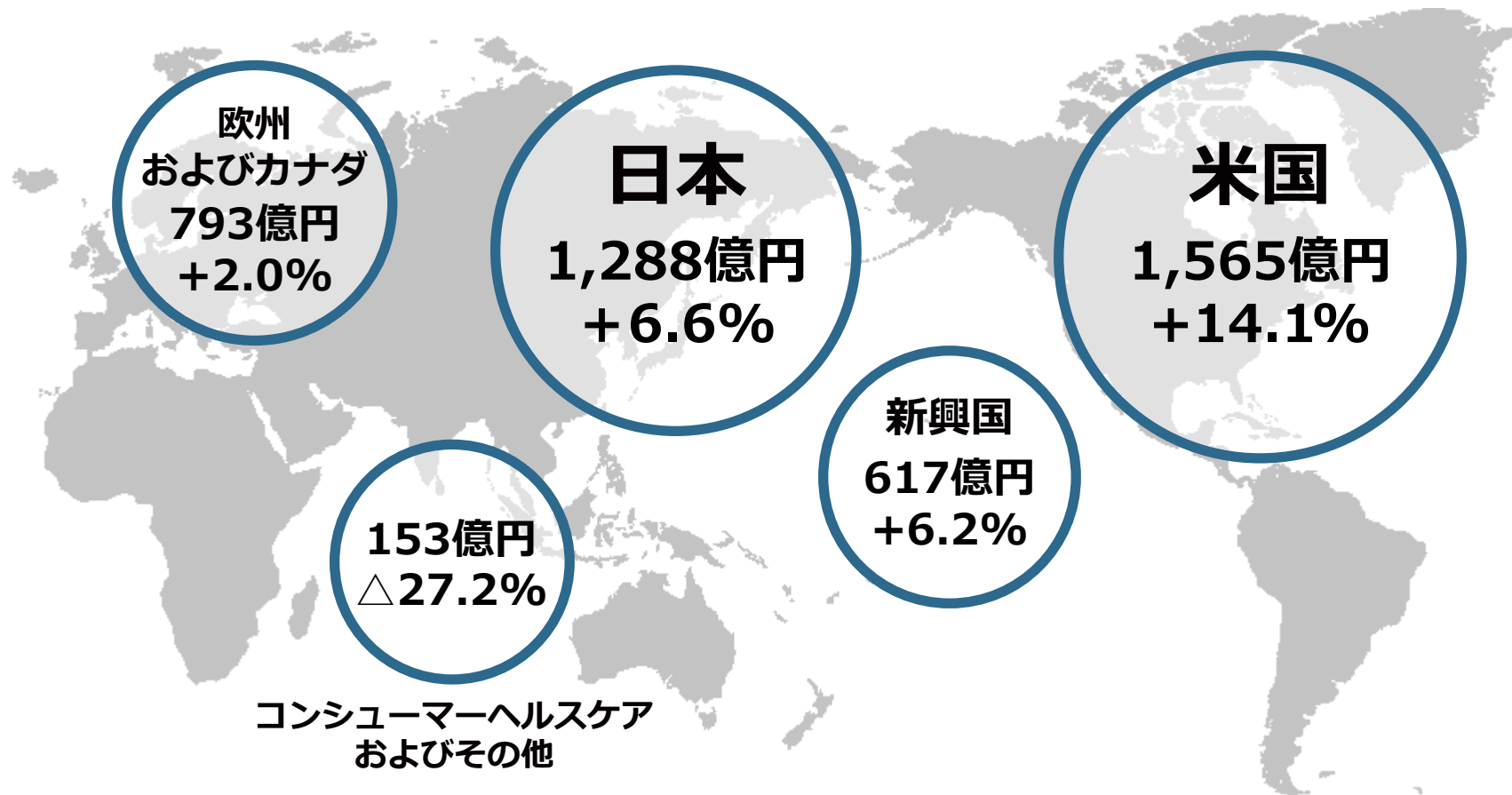
2018年度第1四半期 実質的な売上収益

		億円	対前年同期
消化器系疾患		601	+34.1%
		143	+26.5%
オンコロジー		137	+43.3%
		112	+18.9%
		68	+39.1%
		11	+351.3%
ニューロサイエンス		137	+29.4%

(注) 2018年度より、個別製品売上のグローバルな管理体系にあわせて、国内の一部製品について、値引・割戻等を個別製品毎に売上から控除して表示しています。比較を容易にするため、2017年度の数値についても組み替えて表示しています。当該組み替えは連結財務諸表に影響を与えるものではなく、また前期数値の修正を意味するものではありません。

# 実質的な売上収益はすべての地域にわたり成長

2018年度第1四半期 実質的な売上収益: 4,415億円 +6.4%



# イノベーティブな早期開発パイプラインへの投資と 既発売品の価値最大化

## オンコロジー (がん)

**PHASE 1**

<b>TAK-573</b> Teva Anti-CD38 attenukine R/R MM	<b>XMT-1522</b> Mersana Therapeutics HER2 dotafloxin ADC HER2+ Solid Tumors	<b>TAK-788</b> EGFR/HER2 inhibitor NSCLC
<b>TAK-164</b> GCC IGN ADC GI cancer	<b>TAK-079</b> Anti-CD38 mAb R/R MM	

**PHASE 2**

<b>sapanisertib</b> mTORC 1/2 inhibitor Endometrial Cancer
<b>TAK-659</b> SYK/FLT-3 inhibitor DLBCL, Solid Tumors
<b>TAK-931</b> CDC7 inhibitor mCRC, ESCC, sqNSCLC

**PHASE 3/申請**

<b>pevonedistat</b> NAE inhibitor HR-MDS/CMML/LB AML
<b>relugolix</b> Myovant GnRH antagonist Prostate Cancer (JP)

**承認\***

\*新規のまたは追加の効能取得を目的とした開発

<b>NINLARO®</b> Proteasome inhibitor Amyloidosis, ND MM, R/R MM relapsed R/R MM dNinlaro/dex, Maint. MM post-SCT Maint. MM non-SCT	<b>ADCETRIS®</b> Seattle Genetics CD30 ADC FL HL, FL PTCL, CTCL (JP) R/R HL (CN), sALCL (CN)
<b>ALUNBRIG®</b> ALK inhibitor ALK+NSCLC (EU, JP, CN), FL ALK+ NSCLC	<b>ICLUSIG®</b> BCR-ABL inhibitor 2 <sup>nd</sup> -Line Chronic Phase CML, Ph+ ALL
<b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2 <sup>nd</sup> line RCC, HCC (JP)	<b>Niraparib</b> Tesaro PARP 1/2 inhibitor Multiple cancer (JP)

## 消化器系疾患

<b>Kuma062</b> PvP Biologics Glutenase Celiac Disease	<b>TIMP-Gliadin</b> Cour Imm. Tol. Induction Celiac Disease
--	--

<b>TAK-906</b> D2/D3R Antagonist Gastroparesis
<b>TAK-954</b> Theravance Biopharma 5-HT4R agonist EFI, POI

<b>ENTYVIO®</b> e487 mAb UC/CD (EM), CD (JP), adalimumab H2H, Sub-Q UC, Sub-Q CD, GVHD Prophylaxis, GVHD SR	<b>Vonoprazan</b> PCAB GERD PPI partial resp (EU), ARD (CN), NERD (JP)
<b>AMITIZA®</b> Sucampo Chloride channel activator Pediatric constipation, OIC/CICNF	<b>ALOFISEL</b> TiGenix mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD

## ニューロサイエンス (神経精神疾患)

<b>TAK-653</b> AMPA potentiator TRD	<b>TAK-418</b> LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome	<b>TAK-041</b> GPR139 agonist CIAS NS
<b>MEDI-1341</b> AstraZeneca Alpha-syn mAb Parkinson's Disease	<b>TAK-925</b> Orexin 2R agonist Narcolepsy	

<b>TAK-935</b> Ovid Therapeutics CH24H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies
<b>TAK-831</b> DAAO inhibitor Ataxia, CIAS NS

<b>TRINTELLIX™</b> Lundbeck Multimodal anti-depressant TESD (US), MDD (JP)
---

## ワクチン

<b>TAK-021</b> EV71 Vaccine	<b>TAK-426</b> BARDA Zika Vaccine
--------------------------------	---

<b>TAK-195</b> Gates Foundation Inactivated Polio Vaccine
<b>TAK-214</b> Norovirus Vaccine

<b>TAK-003</b> Dengue Vaccine
----------------------------------

**新規候補物質の2018年度  
ステージアップ  
(2018年4月1日以降)**

**オーファンドラッグ  
(希少疾病医薬品) 指定**  
(いずれかの開発地域もしくは効能で  
指定を受けたもの)

2018年7月31日現在のパイプライン。

# 2018年度に想定されている重要な研究開発マイルストーン

疾患領域	開発品	予定されるイベント	
オンコロジー (がん)	<b>Adcetris</b>	ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 欧州承認 (H2) ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 日本承認 (H2)	
	<b>Alunbrig</b>	ALTA-L1 ALK陽性非小細胞肺癌 (フロントライン適応) 中間解析 (H1)  ALK陽性非小細胞肺癌 (セカンドライン適応) 欧州承認 (H2)	
	<b>Cabozantinib</b>	肝細胞がん 日本ピボタル試験開始 (H2)	
	<b>Iclusig</b>	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病グローバルピボタル試験開始 (H1)	
	<b>Ninlaro</b>	初発の多発性骨髄腫 初回の中間解析 (H1)  自家造血幹細胞移植後の初発の多発性骨髄腫の維持療法 初回の中間解析 (H1) 	2019年度の2回目の 中間解析まで試験を継続
	<b>Pevonedistat</b>	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/ 低プラスト急性骨髄性白血病 Ph-2最終解析 (H2)	 2019年度に最終解析を延期 するも、実施中のPh-2試験 をもって申請可能性あり
	<b>TAK-788</b>	非小細胞肺癌 申請が可能なPh-2試験の患者への投与開始 (H2)	
消化器系疾患	<b>Entyvio</b>	クローン病 日本申請 (H1)  潰瘍性大腸炎 日本承認 (H1)  潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤申請 (H2) 	主要評価項目と副次評価項目 を達成、米欧申請を計画
	<b>TAK-954</b>	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始 (H1) 術後麻痺性イレウス Ph-2b試験開始 (H2)	
	<b>TAK-906</b>	胃不全麻痺のPh-2b試験開始 (H2)	
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	<b>Trintellix</b>	大うつ病 日本申請 (H2)  治療に起因する性機能障害 (TESD) の米国添付文書のアップデート (H2)	日本人患者を対象とした Ph-3試験で良好な結果、 申請に向けて準備中
	<b>TAK-925</b>	ナルコレプシー患者におけるプルーフオブコンセプト (H2)	
ワクチン	<b>TAK-003</b>	デングウイルスワクチン Ph-3主要解析 (H2)	
	<b>TAK-214</b>	ノロウイルスワクチン Ph-2b最終解析(成人) (H1)	

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性がります。

# グローバル経費削減イニシアチブの業務への完全な組み入れ

- 実質的な営業経費は対前年同期3.4%減少、2018年度のターゲットに対して前倒しで進捗
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率640bpsの向上のうち、営業経費減少による貢献は480bps
- コストパッケージの経費はZBB（Zero Based Budgeting）で策定した予算ターゲットに対して4.7%削減
- ZBBによる予算ターゲットをすべてのマネジメントのKPIに組み込み

# 営業フリー・キャッシュ・フローはR&Dマイルストンの達成と前年同期のテバJVへの製品売却影響を受けて△90.6%

## 2018年度第1四半期 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	対前年同期	
<b>当期利益</b>	<b>1,450</b>	<b>781</b>	<b>△669</b>	<b>△46.1%</b>
減価償却費、償却費及び減損損失	460	386	△74	
運転資本増減（△は増加）	△412	△584	△172	
法人税等の支払額	△123	△138	△15	
その他	△629	△40	+589	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>746</b>	<b>405</b>	<b>△341</b>	<b>△45.7%</b>
有形固定資産の取得と売却*	△140	△196	△56	
無形資産の取得**	△50	△157	△106	
<b>営業フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>555</b>	<b>52</b>	<b>△503</b>	<b>△90.6%</b>

- ノン・コア資産の売却は計画通り、さらに319億円のキャッシュを創出
- 2018年度第1四半期末の純有利子負債/EBITDA倍率は、配当金支払とブリッジ・タームローンの借入枠設定により、前年度末の1.8倍からわずかに上昇し2.0倍、2017年度第1四半期末の2.1倍からは低下

次の項目は上記のキャッシュ・フロー計算書から控除しています。

\* (2017年度第1四半期) 東京・品川のTSタワーの売却収入319億円

(2018年度第1四半期) 土地・建物等の売却収入60億円（主に大阪・十三の工場の一部土地・建物）

\*\* (2017年度第1四半期) 将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い84億円

# 第1四半期の力強い実績によりマネジメントガイダンスの 実質的な成長見通しに自信

	2018年度 マネジメントガイダンス (成長率 %)	2018年度 第1四半期実績 (成長率 %)
実質的な売上収益	1桁台前半	+6.4%
実質的なCore Earnings	1桁台後半	+40.3%
実質的なCore EPS	10%台前半	+51.1%

- 第1四半期実績は期ずれ影響を含む
- 米国のベルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与が可能な競合品一つが、2018年9月に市場に追加参入してくることを業績予想上の前提としている。  
[グローバル売上収益：2017年度 1,296億円、2018年度 755億円] \*

\* 2018年度の計画レートを適用した同一為替換算ベース

# 2018年度の年間業績見通しは変更なし

ガイドランス (実質ベース)	売上収益	1桁台前半
	Core Earnings	1桁台後半
	Core EPS	10%台前半

(億円)			対前年度
公表予想 (財務ベース)	売上収益	17,370	△1.9%
	営業利益	2,010	△16.9%
	EPS	178円	△25.7%

本公表予想には、当社によるShire社買収の提案に関連する業績影響の年間の予想値を含めておりません。本件にかかる合理的な業績影響の予想値が確定次第、当該予想値を含めた業績予想をお知らせいたします。



# 2018年度も力強いビジネス・モメンタムが持続

- 優先事項であるGrow Portfolio（事業ポートフォリオの成長）、Strengthen Pipeline（研究開発パイプラインの強化）およびBoost Profitability（利益率の向上）の着実な進捗
- 財務ベースの営業利益は、2017年度第1四半期の和光純薬の株式売却益1,063億円とテバ社との合併会社に売却した第2陣の製品にかかる収益168億円の影響を除くと+37.5%の増益
- 実質的な売上収益と利益率の力強いスタート、タケダの成長ドライバーと規律ある営業経費管理が牽引
- 第1四半期の力強い実績によりマネジメントガイダンスの実質的な成長見通しに自信、財務ベースの2018年度の年間業績見通しは変更なし

# R&D Day (予定)

東京 R&D Deep Dive  
2018年9月27日 (木) \*

ボストン R&D Deep Dive  
2018年10月10日 (水) \*

\*開催日が確定しましたら案内状をご送付いたします。

# Shire社買収提案に関するアップデート

## これまでの進捗

- グローバル金融機関と75億米ドルのタームローンクレジット契約を締結
- 規制当局による審査が開始
  - 米国連邦取引委員会からクリアランスを取得
- 統合に向けた準備が進行中
- 第1四半期に106億円のShire社買収提案の関連費用を計上
  - 一般管理費 46億円（アドバイザー費用等）
  - 金融費用60億円（ブリッジローン・フィー等）

## 今後の主な予定

- タケダのコア・バリューに基づき、両社の知識と専門性を活用した、詳細な機能別統合計画の策定を開始
- 規制当局との手続きが継続中（EU、中国、日本、ブラジルを含む）
- 2019年（暦年）の上半期に完了予定



# Appendix

# Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「**実質的な成長**」(Underlying Growth)の概念を採用しております。「**実質的な成長**」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「**実質的な成長**」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「**Underlying Revenue Growth**」(実質的な売上収益の成長)、「**Underlying Core Earnings Growth**」(実質的なCore Earningsの成長)および「**Underlying Core EPS Growth**」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

**実質的な売上収益**は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

Core Earningsは、営業利益から、製品に係る無形資産償却費及び減損損失、その他の営業収益およびその他の営業費用を控除して算出します。さらに、重要性のある、その他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、企業買収に係る会計処理の影響、主な訴訟費用、事業構造再編費用、自然災害による影響、政府による法令変更の措置の影響などが含まれます。**実質的なCore Earnings**は、為替レートを一定として、Core Earningsに、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

**実質的なCore EPS**の算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore Earningsの算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

# 成長ドライバーの実質的な売上収益

(億円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	対前年同期	
エンティビオ	449	601	+153	+34.1%
タケキャブ	113	143	+30	+26.5%
デクスラント	156	171	+15	+9.7%
アミティーザ	81	76	△5	△6.2%
ランソプラゾール	90	69	△21	△23.4%
<b>消化器系疾患*</b>	<b>889</b>	<b>1,060</b>	<b>+171</b>	<b>+19.3%</b>
ニンラー口	95	137	+41	+43.3%
アイクルシグ	49	68	+19	+39.1%
アドセトリス	94	112	+18	+18.9%
ALUNBRIG	2	11	+8	NA
リュープロレリン	278	286	+7	+2.7%
ベクティビックス	50	54	+4	+8.0%
ベルケイド	342	305	△37	△10.8%
<b>オンコロジー</b>	<b>910</b>	<b>972</b>	<b>+61</b>	<b>+6.7%</b>
トリンテリックス	106	137	+31	+29.4%
ロゼレム	42	51	+9	+21.5%
アジレクト	—	3	+3	NA
レミニール	43	45	+2	+4.7%
コパキソン	2	2	+0	+17.7%
<b>ニューロサイエンス</b>	<b>193</b>	<b>238</b>	<b>+45</b>	<b>+23.5%</b>

\* パントプラゾールは消化器系疾患の売上収益に含めていません。パントプラゾールは新興国における主力製品であることから4つ目の成長ドライバーである「新興国事業」の売上収益に含めています。

(注) 2018年度より、個別製品売上のグローバルな管理体系にあわせて、国内の一部製品について、値引・割戻等を個別製品毎に売上から控除して表示しています。比較を容易にするため、2017年度の数値についても組み替えて表示しています。当該組み替えは連結財務諸表に影響を与えるものではなく、また前期数値の修正を意味するものではありません。

# 損益計算書（財務ベース） 2018年度第1四半期

(億円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	対前年同期	
売上収益	4,482	4,498	+16	+ 0.4%
売上総利益	3,274	3,292	+19	+ 0.6%
対売上収益比率	73.0%	73.2%		+0.2pp
販売費及び一般管理費	△1,459	△1,450	+8	△ 0.6%
研究開発費	△757	△720	+37	△ 4.9%
非定常項目	5	46		
<b>Core Earnings</b>	<b>1,063</b>	<b>1,168</b>	<b>+105</b>	<b>+ 9.8%</b>
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△325	△240	+85	△ 26.1%
その他の営業収益/費用	1,216	106	△1,110	△ 91.3%
非定常項目（振り戻し）	△5	△46		
<b>営業利益</b>	<b>1,950</b>	<b>989</b>	<b>△961</b>	<b>△ 49.3%</b>
対売上収益比率	43.5%	22.0%		△21.5pp
金融収益/費用	35	△86	△121	NA
持分法による投資損益	△3	36	+38	NA
<b>税引前当期利益</b>	<b>1,982</b>	<b>939</b>	<b>△1,044</b>	<b>△ 52.7%</b>
法人所得税費用	△533	△158	+375	△ 70.4%
非支配持分	△2	2	+4	NA
<b>当期利益</b>	<b>1,448</b>	<b>782</b>	<b>△665</b>	<b>△ 46.0%</b>
<b>EPS</b>	<b>186 円</b>	<b>100 円</b>	<b>△86 円</b>	<b>△ 46.1%</b>

# 損益計算書（実質ベース） 2018年度第1四半期

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第1四半期	第1四半期		
実質的な売上収益	4,148	4,415	+267	+ 6.4%
実質的な売上総利益	2,970	3,232	+262	+ 8.8%
対売上収益比率	71.6%	73.2%		+1.6pp
販売費及び一般管理費	△1,410	△1,363	+47	△ 3.4%
研究開発費	△729	△703	+26	△ 3.6%
<b>実質的なCore Earnings</b>	<b>831</b>	<b>1,167</b>	<b>+335</b>	<b>+ 40.3%</b>
対売上収益比率	20.0%	26.4%		+6.4pp
金融収益/費用	△9	△12	△3	+ 37.5%
持分法による投資損益	8	45	+37	NA
<b>実質的なCore税引前当期利益</b>	<b>830</b>	<b>1,199</b>	<b>+369</b>	<b>+ 44.4%</b>
法人所得税費用	△176	△211	△35	+ 20.2%
非支配持分	△1	△1	+1	△ 47.8%
<b>実質的なCore当期利益</b>	<b>653</b>	<b>987</b>	<b>+334</b>	<b>+ 51.1%</b>
<b>実質的なCore EPS</b>	<b>84 円</b>	<b>126 円</b>	<b>+43 円</b>	<b>+ 51.1%</b>



# 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整

(億円)	第1四半期		対前年同期	
	2017年度	2018年度		
<b>売上収益</b>	<b>4,482</b>	<b>4,498</b>	<b>+16</b>	<b>+ 0.4%</b>
為替影響*	△51	△30	+21	+0.5pp
<b>為替影響*除き売上収益</b>	<b>4,431</b>	<b>4,468</b>	<b>+37</b>	<b>+ 0.8%</b>
事業等の売却影響**	△283	△53	+230	+5.6pp
テバJVへの長期収載品	△168	—	+168	+4.1pp
TAK-935	△35	—	+35	+0.8pp
マルチラブ社	△13	△11	+2	+0.0pp
テックプール社	△52	△40	+12	+0.3pp
その他	△15	△2	+14	+0.3pp
<b>実質的な売上収益</b>	<b>4,148</b>	<b>4,415</b>	<b>+267</b>	<b>+ 6.4%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート (1ドル=105円, 1ユーロ=130円)を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の売上を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 営業利益から実質的なCore Earningsへの調整

(億円)	第1四半期		対前年同期	
	2017年度	2018年度		
<b>営業利益</b>	<b>1,950</b>	<b>989</b>	<b>△961</b>	<b>△ 49.3%</b>
無形資産の償却費および減損損失	325	240	△85	△4.7pp
その他の営業収益/費用	△1,216	△106	+1,110	+61.6pp
非定常項目 (Shire社買収提案関連費用)	–	46	+46	+2.5pp
非定常項目 (その他)	5	–	△5	△0.3pp
<b>Core Earnings</b>	<b>1,063</b>	<b>1,168</b>	<b>+105</b>	<b>+ 9.8%</b>
為替影響*	△21	△3	+19	+2.5pp
事業等の売却影響**	△211	1	+212	+28.0pp
テバJVへの長期収載品	△168	–	+168	+22.1pp
TAK-935	△35	–	+35	+4.6pp
マルチラブ社	2	△1	△3	△0.4pp
テックプール社	△8	4	+12	+1.6pp
その他	△2	△2	+1	+0.1pp
<b>実質的な Core Earnings</b>	<b>831</b>	<b>1,167</b>	<b>+335</b>	<b>+ 40.3%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート (1ドル=105円, 1ユーロ=130円)を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 当期利益から実質的なCore当期利益への調整

(億円)	第1四半期		対前年同期	
	2017年度	2018年度		
<b>当期利益</b>	<b>1,448</b>	<b>782</b>	<b>△665</b>	<b>△ 46.0%</b>
<b>EPS</b>	<b>186 円</b>	<b>100 円</b>	<b>△86 円</b>	<b>△ 46.1%</b>
無形資産の償却費および減損損失	219	183	△37	△3.0pp
その他の営業収益/費用	△836	△75	+762	+61.5pp
Shire社買収提案関連費用	—	43	+43	+3.5pp
Shire社買収提案金融費用	—	42	+42	+3.4pp
その他の非定常項目の調整	△29	2	+32	+2.6pp
<b>Core当期利益</b>	<b>801</b>	<b>977</b>	<b>+176</b>	<b>+ 21.9%</b>
為替影響*	△3	10	+14	+2.5pp
事業等の売却影響**	△145	△1	+144	+26.7pp
<b>実質的なCore当期利益</b>	<b>653</b>	<b>987</b>	<b>+334</b>	<b>+ 51.1%</b>
<b>実質的なCore EPS</b>	<b>84 円</b>	<b>126 円</b>	<b>+43 円</b>	<b>+ 51.1%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート (1ドル=105円, 1ユーロ=130円)を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。

また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 純有利子負債/EBITDA倍率は2.0倍とわずかに上昇、 ノン・コア資産の売却は計画通り、319億円のキャッシュ創出

## 2018年度第1四半期末 純有利子負債/ EBITA倍率

(億円)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	対前年同期	
営業フリー・キャッシュ・フロー	555	52	△503	△90.6%
和光純薬株式売却	845	-		
その他投資有価証券売却*	113	259	} 319	
不動産の売却*	319	60		
配当金	△ 635	△ 650		
ブリッジ・タームローン借入枠	-	△ 104		
その他	△ 68	△ 248		
現金の増減額 (△は減少)	1,128	△ 630	△1,759	NA

\* 2018年度売却目標: 合計約1,100億円

	2017年度 第4四半期末	2018年度 第1四半期末	対前年度末	
有利子負債	△ 9,857	△ 9,950	△93	+0.9%
純有利子負債	△ 6,911	△ 7,635	△724	+10.5%
有利子負債/EBITDA倍率	2.6 x	2.6 x	△0.1	
純有利子負債/EBITDA倍率	1.8 x	2.0 x	+0.1	

# 2018年度は実質的なビジネスの強さが一時的収益の減少による影響を緩和

## 2018年度 公表予想（財務ベース）

(億円)	2017年度 実績	2018年度 公表予想	増減	
売上収益	17,705	17,370	△335	△1.9%
研究開発費	△3,254	△3,110	+144	+4.4%
Core Earnings	3,225	3,095	△130	△4.0%
無形資産償却費および減損損失	△1,221	△1,080	+141	+11.6%
その他の営業収益／費用*	414	△5	△419	△101.2%
営業利益	2,418	2,010	△408	△16.9%
税引前当期利益	2,172	1,830	△342	△15.7%
当期利益	1,869	1,390	△479	△25.6%
EPS	239 円	178 円	△61 円	△25.7%
円/ドル	111 円	108 円	△3 円	△2.5%
円/ユーロ	129 円	133 円	+4 円	+2.9%

\* 非正常項目を含む

本公表予想には、当社によるShire社買収の提案に関連する業績影響の年間の予想値を含めておりません。本件にかかる合理的な業績影響の予想値が確定次第、当該予想値を含めた業績予想をお知らせいたします。

### 増減率に対する為替と事業等の売却による影響

<b>売上収益</b>	<b>△1.9%</b>	
• 為替影響		約△1.0pp
• 事業等の売却影響		約△2.0pp
<b>Core Earnings</b>	<b>△4.0%</b>	
• 為替影響		約△3.0pp
• 事業等の売却影響		約△7.0pp

### 主要項目（億円）

	2017年度	2018年度
製品等に係る無形資産償却費	△1,261	△960
製品等に係る減損損失	40	△120
その他の営業収益	1,694	650
• 和光純薬の株式売却益	1,063	—
• 不動産売却益	188	555
• 長期収載品の事業譲渡益	275	45
その他の営業費用	△1,266	△655
• 事業構造再編費用	△447	△405
• 為替換算調整の実現に係る損失	△417	—

# 略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	H2H	head to head (直接比較)	OIC	opioid induced constipation (オピオイド誘発性便秘症)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロッカー)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PPI	proton pump inhibitor (プロトンポンプ阻害薬)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	IO	immuno-oncology (がん免疫治療)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
CD	Crohn's disease (クローン病)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	LBD	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	RA	rheumatoid arthritis (リウマチ性関節炎)
CIC	chronic idiopathic constipation (慢性特発性便秘)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低プラスト急性骨髄性白血病)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	LSD1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
CNS	central nervous system (中枢神経系)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	MCL	mantle cell lymphoma (マントル細胞リンパ腫)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	MDD	major depressive disorder (大うつ病性障害)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	MM	multiple myeloma (多発性骨髄腫)	sq	squamous (扁平上皮)
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	mCRC	metastatic colorectal cancer (転移性結腸がん)	SR	steroid refractory (ステロイド抵抗性)
EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	mTORC	mammalian target of rapamycin complex (哺乳類ラパマイシン標的たんぱく複合体)	SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease (ステロイド抵抗性急性移植片対宿主病)
EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	MTCL	mature T-cell lymphoma (成熟型T細胞リンパ腫)	SubQ	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SYK	spleen tyrosine kinase (脾臓チロシンキナーゼ)
FL	front line (フロントライン適応)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
FLT-3	FMS-like tyrosine kinase 3 (FMS様チロシンキナーゼ3)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	TRD	treatment resistant depression (治療抵抗性うつ病)
GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	Neg	negative (陰性)	UC	ulcerative colitis (潰瘍性大腸炎)
GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	VEGFR	vascular endothelial growth factor receptor (血管内皮細胞増殖因子受容体)
GI	gastrointestinal (胃腸)	NF	new formulation (新規剤型)		
GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)		
GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NS	negative symptoms (陰性症状)		



武田薬品工業株式会社